

令和元年度



第59回 九州地区公立学校教頭会研究大会  
第50回 熊本県公立学校教頭会研究大会

# 熊本大会

「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」

令和元年8月6日(火)・7日(水)

全体会会場：市民会館シアーズホーム夢ホール  
分科会会場：市内各会場



## 全体会 講演会

### 演題

「人生を変える

〜心の整え方〜」

### 講師

書道家

武田 双雲 氏

### 講師の経歴

一九七五年 熊本生まれ。東京理科大学卒業後、NTTに就職。約三年後に書道家として独立。

NHK大河ドラマ「天地人」や世界遺産「平泉」など、数々の題字を手掛ける。

講演活動やメディア出演、著書出版も多数。二〇一三年度文化庁から文化交流使に任命され、ベトナム・インドネシアにて書道ワークショップを開催。二〇一五年と二〇一九年、カリフォルニアにて個展開催、二〇一七年には、ワシントン大学にて講演など、世界各国で活動する。

### 講演内容

書道は後戻りできない。一発本番で二度書きはできない。墨

一本で勝負しなければならぬのである。これまで書道を極めようとしてきたが、ある仕事をしたことがきっかけで色に興味をもった。すぐに画材屋へ行き、多くの色の絵の具等を購入した。その後、解体前のアパートを借りて夢中になって活動しているうちに現代アートから声がかかるようになった。現代アートは、過去も未来もそこに集合され、自分を解放でき、日頃の行いが全部出るものである。

一期一会は「有り難い」に近い。自分の父、母は、店の前で偶然ぶつかったことから出会いが始まり、結婚し、自分が生まれてきた。その出来事がなければ自分は存在していない。

誰もが大小の選択をしながら生きており、その他の選択肢は捨てて生きている。

時間は、過去から未来に流れているように見える。これは、言い換えると、未来が次々とやって来るとも言える。人間の特徴は、未来を想像できることにある。動物においても、近い未来のことは想像できることもあるが、老後のことなどを考えることは無い。人間は、無限にやってくる未来のパネルから一つの傷や不安が気になり、そこに意識が行き、ずっと見てしまうこ

とがある。これが、苦しむ原因となるが、人間はそういう機能を持つているのである。それならば、それとうまく付き合うことができないだろうか。

自分自身ADHDであり、小学校時代は、国語の授業でも漢字には興味を持ったが、文章を書くことができず、自分で書いたものも全く意味の通らないものであった。しかし、今は、本を六〇冊出版している。また、絵を描くことも苦手であったが、現代アートを手がけるようになってからは、自分の特徴である多動性、衝動性、多様性等のよさを十分に発揮できる場となっている。

今、ネガティブな出来事をポジティブに変換する活動を行っている。同じことをどのような角度から見ると気持ちが変わってくる。夫婦の間で、妻が夫に「放っておかれる」と見るのか「放っておいてくれる」と見るのかで、夫の見方や夫婦関係が変わってくる。同じ出来事から、不満にも「良さ」にもとらえることができる。

多様性は、とらえ方で違う。人は自分と違うということに「喜び」を感じるか、「許さない」という気持ちで過すか。未来が変わってくると思っ

「気」がつく言葉と言えば、「元氣」、「勇氣」、「本氣」、「病氣」、「氣合い」、「景氣」、「電氣」、「天氣」などがある。全てはエネルギーでできており、共鳴し合っている。

「あいにくの雨」という言葉があるが、「あいにく」はその人の感情であるため、最近では使われなくなっているが、雨もとらえ方次第なのである。

よく怒っている人は、怒らせそうな人を探している。雨を「最悪だ」と思うと、最悪なタイミングで現実に降ってくる。

「どう」いう気持ちでそれをするか、どう「こちら」が見るかが大事である。表情と合わない言葉は、気持ちが悪い。表情や仕事を覚えてから始めることが、大事である。いいことがあったから「感謝」するのではなく、「感謝」してから始めるのである。そうすると共鳴して振動しあう、応えてくれる。「気」を変えることが大事なのである。

※九州教頭会研究大会 熊本大会は、台風八号の影響により、全体会のみ実施。